

令和7年度

高齢者相談センター事業評価

— 重点取組事項 —

	重点取組事項	センター評価
【第1圏域】 高齢者相談 センター 愛泉苑	●増加していく複合的な課題を抱えるケースへの支援をスムーズに進めるため、3職種が連携して課題を解決できるようにチーム力を高める。 ●高齢者の閉じこもりやフレイルを予防するため、介護予防への対策の充実を図る。 ●認知症の方とそのご家族が、安心して生活できる地域を目指し、認知症関係支援の充実を図る。	●事例検討会議で専門的な意見交換を重ね、連携を強化した。また、3職種が地域ケア個別会議へ参加する体制を確立し、他職種の視点に触れることで各職員の視野を広げる契機となった。 ●フレイル予防の普及啓発により住民の介護予防への意識が高まり、サロンの新規参加者増加につながった。その結果、地域全体で介護予防に取り組む体制の強化ができた。 ●サポーター養成講座で認知症への理解を地域に広げ、チームオレンジ支援や認知症カフェの開催で家族に相談・支援の場を提供した。一方、参加できない方への情報発信は課題であり、職員が地域ネットワークを活用し本人と家族の安心につなげていく。

	重点取組事項	センター評価
【第2圏域】 高齢者相談センター みずほの里	●民生委員・児童委員、自治協力団体、老人クラブ等の地域住民等に対し、センターを積極的に周知し、関係づくりを継続するとともに、個別課題の発掘や解決に取り組む。 ●チームオレンジにおいて、認知症カフェなどの継続支援を行うとともに、普及啓発活動や認知症サポーターの育成活動などの支援の充実を図る。 ●個別ケア会議、研修会、圏域会議等において、地域の主任介護支援専門員等との連携により、ケアマネジメント力の向上を図るとともに、同行訪問を積極的に実施することで地域課題の発掘を行う。	●定例会へ継続的に出席することにより、民生委員・児童委員や自治協力団体等との顔の見える関係が維持され、センターの周知と信頼関係の構築が着実に進んでいる。これらの緊密な連携が、潜在的な個別課題の早期発掘や、多機関と協働したスムーズな課題解決へと繋がっており、計画に沿った成果につながっている。 ●総合相談対応時に認知症が疑われる方へオレンジカフェを案内し、早期支援や地域とのつながりづくりを行った。一方で、医療につながりにくい方への支援が課題として見られることから、今後は医療機関や関係機関との連携強化を図り、早期受診・早期支援につなげていきたい。 ●圏域内の事業所や多職種との連絡会議を年4回開催し、圏域の居宅介護支援事業所が増えたことで、情報共有や連携強化につながった。地域ケア個別会議の継続的な開催によりケアマネジメント力の向上や地域課題の把握に一定の成果が得られた。

	重点取組事項	センター評価
【第3圏域】 高齢者相談 センター 利根いこいの 里	●高齢者の分野だけでなく、医療・障害・児童等の関係機関と連携し、複合化・複雑化する幅広い課題に対応する。 ●介護予防が必要な高齢者の早期把握に努め、高齢者の孤立やフレイルを予防するために、ふれあいサロンの支援や介護予防に関する普及啓発を行う。 ●チームオレンジの立ち上げに向けて、認知症サポーターの育成や認知症カフェの充実を図り、認知症になっても安心できる地域づくりを行う。	●総合相談では高齢者分野の相談が大半を占めていたが、医療や障害分野に関する相談もあり、その際は医療機関や障がい者福祉課などの関係機関と連携しながら対応した。複雑・多様化する課題に対し、知識や支援技術をさらに深め、多様な相談に適切に対応できるよう努めていく。 ●介護予防把握訪問を通して、支援が必要な高齢者を把握し、総合相談につながったケースもあり、早期発見・早期支援につなげることができた。地域には把握できていない支援が必要な高齢者もいると考えられるため、今後も関係機関や地域住民と連携しながら、継続的な把握と介護予防の推進に努めていく。 ●認知症サポーター養成講座や認知症カフェを開催し、認知症に関する普及啓発に取り組むことができた。一方で、チームオレンジの立ち上げには至っておらず、今後の課題として、関係機関や地域住民と連携しながら体制づくりを進めていく。

	重点取組事項	センター評価
【第4圏域】 高齢者相談 センター 多賀谷寿光園	●成年後見や高齢者虐待案件が増加していることから、職員のスキルアップを行うとともに、予防的な観点から普及啓発活動を行う。 ●高齢化が進んでいる地区を中心に実態把握を行い、介護予防の普及を行うとともに、適切な介護・医療に結び付く支援を行う。 ●認知症に対する取り組みの充実を図る。 ●地域の主任介護支援専門員や介護支援専門員と連携し、家族と本人に対する支援が円滑に行えるように支援する。	●高齢者虐待対応研修に参加し、高齢者虐待に対する知識と理解を深めた。また、民児協にて高齢者虐待や消費者被害等の啓発活動を行った。 ●自治会や各種団体の会議に足を運び、地域との関係づくりに努めた。また、要支援高齢者把握訪問を行うことで、地域の情報収集を行うとともに、医療や介護が必要な方の早期発見につなげた。 ●認知症サポーター養成講座や認知症に関する講座等を開催し、啓発に努めたが、ステップアップ講座の開催やチームオレンジの設置までには至っていない。 ●地域の居宅介護支援事業所との事例検討や、地域ケア会議を計画的に実施することにより、居宅介護支援事業所との連携強化を図った。

	重点取組事項	センター評価
【第5圏域】 高齢者相談 センター 加須清輝苑	●重層的な問題を抱えているケースに柔軟に対応し、医療機関や障がい者福祉、生活福祉等の関係機関や民生委員との連携を図りながら、支援に繋げていく。 ●地域で孤立する高齢者の閉じこもり予防のため、介護予防に関する活動を推進していく。 ●市民向けに認知症サポーター養成講座を開催するとともに、認知症とその家族が生活しやすい地域の土壌づくりのための啓発を行っていく。 ●地域ブロンズ会議の活動が生活支援の取り組みに繋がるよう支援をしていく。	●地域ケア個別会議や連絡会議を計画的に開催した。 独居世帯の問題ケースが増加しており、ケアマネや事業所、地域の関係者との連携が一層重要となっている。今後もケース対応を通じて関係性を深めていく。 ●把握訪問は目標値を達成した。訪問した方が何らかの支援を必要とする状態にあるか、アウトリーチの視点を持って訪問するよう共通認識を図って対応した。また、高齢者の居場所づくりとして、新たなサロン設置の後方支援を行った。今後も介護予防につなげる啓発活動を継続していく。 ●くらしの会の要請による講座には多くの方が集まり、好評を得た。圏域外での開催だったため、当該地域からの参加者が少なかったが、今後も認知症への理解を深める活動を続け、チームオレンジの立ち上げにもつなげていく。 ●年度計画に沿って実施できているが、参加者の減少が課題となっている。従来の進め方と変化してきており、センターの立ち位置を意識しながら支援していく。

	重点取組事項	センター評価
【第6圏域】 高齢者相談 センター ふれあいの郷	●地域の居宅介護支援事業所の介護支援専門員と情報共有、事例検討の機会をつくり、ケアマネジメントの質の向上、連携強化を図る。 ●地域の関係機関との連携を通じて、相談窓口としての役割を明確にし、権利擁護支援として、相談や啓発活動を推進するとともに、地域のニーズ把握に努める。 ●チームオレンジへの参画、地域住民への認知症に関する普及啓発を図り、認知症の人やその家族にとってやさしい地域づくりに努める。	●担当圏域内の居宅介護支援事業所が1カ所のみのため、事例検討や情報共有の機会を月1回設け、連携強化を図った。また、介護予防支援などの委託先となっている居宅介護支援事業所とは、個別のケースを通じて、連携・事例相談・後方支援の対応に努めた。 ●総合相談窓口として、内容に応じ適切な機関や事業所と連携し、対応することができている。権利擁護支援については、虐待対応や個別の成年後見制度相談等に対して、チームによる柔軟な対応ができている。 ●地域のチームオレンジへ参画し、毎月の定例会に継続的に参加して活動支援に努めた。また、認知症サポーター養成講座を年4回実施。毎年行っている中学校での開催のほか、小学校での開催や地域企業への開催も実施することができ、認知症に関する啓発活動を積極的に行うことができた。センターでの認知症に関する個別相談でも、自宅を訪問して話を伺い、医療機関と連携して受診につなげる等の対応を適宜行った。